

相模原商工会議所 景気観測調査結果 (令和7年4月～6月)

昨年不調であった小売業・卸売業は改善に向かい、前期振るわなかった建設業も回復傾向である。製造業と飲食業・サービス業は景況の減退傾向が続いている。全体としては景況は前期並みであり、次期は若干の改善が見込まれる。



ポイント

- ▶ 令和7年4月～6月期の総合業況DIは▲23と、前期▲24からほとんど動きがなかった。前々期に悪化していた建設業は前期（前期▲18・今期▲12）は引き続き改善が続いている。飲食業・サービス業（前期▲26・今期▲22）も若干改善した。小売業・卸売業（前期▲24・今期▲22）は小幅の改善だった。製造業（前期▲24・今期▲31）は大幅に悪化している。
- ▶ コメントによると、円安の影響で一部の業界でインバウンド需要や輸出の拡大による好況が見られる。物価高・コスト高は全業種で続いており、金利上昇による悪影響を懸念する声も上がってきている。
- ▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲19と、今期▲23から4ポイントの改善の見込み。飲食業・サービス業（今期▲22・次期▲15）は引き続き改善が進む見込み。今期落ち込んだ製造業（今期▲31・次期▲23）は前期並みへの回復が見込まれる。建設業（今期▲12・次期▲14）は今期が山となり足踏みが続く見込み。小売業・卸売業（今期▲22・次期▲30）は、DI値のかなりの下落が続くと予想されている。



各業界から寄せられたコメント

製造業、切削工具製造及び再研磨

米国の関税。自動車業界の低迷。

建設業、土木、建築工事請負業・不動産事業

雇用、所得環境の改善により、緩やかな景気回復の継続が期待される。今後の国内建設市場については、建設投資は引き続き堅調に推移することが見込まれる。ただし、技能労働者の減少、時間外労働に関する上限規制の適用による影響や原材料価格の高止まり等が懸念される。

卸売業、食肉関係

お米を含む各食品等の値上げで消費者の消費意欲が無くなってきていると感じている。

飲食業、居酒屋

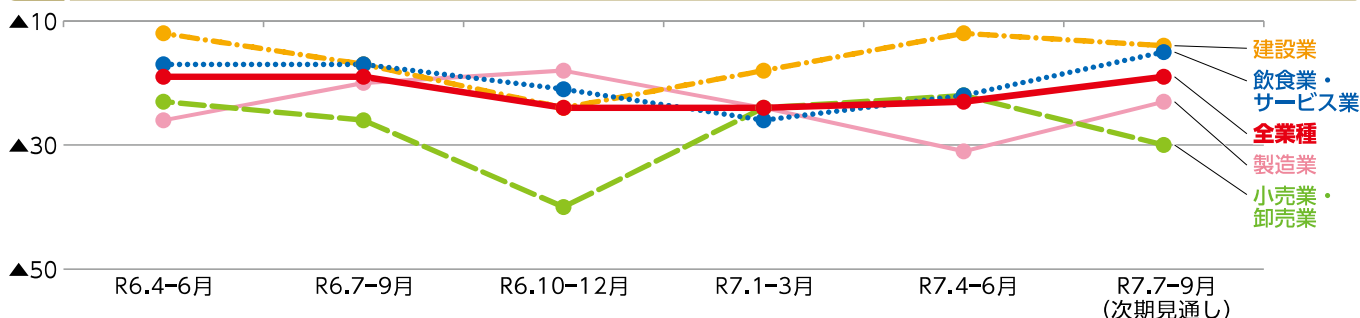
客足は伸びている。客単価も悪くない。ただし仕入単価、諸経費の増加が影響して、業績が好調とはいえない。

情報通信業、受託ソフトウェア開発、技術者派遣

AI等技術革新によるビジネスモデルの転換が必要。これまで稼ぎ頭であった人材が不要になる。



業況別（総合判断）DI値の推移



	前年同期概況 (R6.4-6)	前々期概況 (R6.7-9)	前々期概況 (R6.10-12)	前期概況 (R7.1-3)	今期概況 (R7.4-6)	次期見通し (R7.7-9)
製造業	▲26	▲20	▲18	▲24	▲31	▲23
建設業	▲12	▲17	▲24	▲18	▲12	▲14
小売業・卸売業	▲23	▲26	▲40	▲24	▲22	▲30
飲食サービス業	▲17	▲17	▲21	▲26	▲22	▲15
全業種(総合)	▲19	▲19	▲24	▲24	▲23	▲19

業況天気図例	快晴	晴れ	薄曇り	小雨	雨
凡例					
	DI値 31以上	DI値 30～11	DI値 10～▲10	DI値 ▲11～▲30	DI値 ▲31以上

<<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値（DI値）を用いる。

調査期間：令和7年4月1日～6月30日
回答率：20.9% 回答者数：720件
調査対象：当所会員事業所3,692事業所

中小企業診断士による分析結果およびご活用いただける支援策等をまとめた詳細データは、当所ホームページに掲載しています。
<https://www.sagamihara-cci.or.jp/services/jouhou/keiki>
データの郵送をご希望される方は、総務課（☎042-753-8131）までご連絡をお願いいたします。

